



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

2013年度日野市環境白書が発刊されました

日野市では、環境基本条例に基づいて環境に関する年次報告書として「日野市環境白書」を毎年12月に発刊しています。「環境白書」は日野市環境基本計画の柱である5つの分野、「みどり」「水」「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」のそれぞれの分野ごとに環境指標を設定し、毎年の移り変わりを図表などで示しています。また、市民の皆さんの協力をいただいて、計画の進行状況の評価、確認を行っているほか、市の機関、市内の市民団体・学校・事業者などの環境への取り組みについても紹介しています。

「2013年度日野市環境白書」では、日野市が2013年度に実施した環境への取り組みのトピックスとして、「日野市市制施行50周年・多摩動物公園開園55周年記念日野市環境フェア開催」、「日野市・日野ビジョン(将来像)と水辺のある風景日野50選選定事業」、「日野市街路樹キーパー制度」の3つを紹介しています。また、上記5分野の環境指標をみると、全部で49項目ある指標のうち、前年より「よくなったもの」が28項目、「悪くなったもの」が9項目、「どちらとも言えない・判断できない」が12項目となっています。2012年度白書ではそれぞれ27、11、11項目でした。緑被率や耕地面積などの指標はやや悪化しましたが、水質やごみ排出量などは改善しています。「白書」は市の環境に関する様々な情報を集約した内容となっていますので、是非ご覧ください。

環境情報センターでは、環境セミナーやいろいろなイベントを通して市民の皆さんが「白書」に触れる機会を増やしていきたいと考えています。

「白書」の内容は、市のホームページに掲載しているほか、市立図書館などで閲覧できますが、入手を希望される方は環境情報センターまでお問い合わせください。



日野市環境フェアで「かわせみ館ブース」を開設 今年も多くの人で賑わいました

2014年度日野市環境フェアは10月25日(土)、昨年に続き多摩動物公園で開催されました。本会場となったウォッチングセンターでは「ふだん着でCO2をへらそう」式典が行われ、「エコクッキングコンテスト」と「浅川にながっているかな・環境学習作文」の入賞者の表彰などが行われました。そのほか、日野市と環境施策で連携している多摩市など4市の取り組み紹介、園内の特別ツアーや自然体験プログラム、大道芸パフォーマンスなど多彩な催しが展開されました。

環境情報センターは昆虫館2Fの多目的ホールで「かわせみ館ブース」を開設、「市内の環境保全団体の活動紹介パネル展(参加団体14)」、「日野の魚たち」及び「日野の野鳥たち」写真展、「木の実の名前当てクイズ」を実施しました。ブースの中央では「木の葉を使ったオリジナル葉を作ろう!」と「牛乳パックで水車を作ろう!」の2つのワークショップも開催しました。また、センターのスタッフ手作りの「ピコ水力発電機」による発電実験や昔の程久保地域のジオラマの展示も行いました。スタンプラリーのコースに入ったこともあり、ブースには1000人近い来場者がありました。環境団体の紹介パネルや魚や野鳥の写真に興味深そうに見ている方も多く、2つのワークショップもそれぞれ30人以上の親子で賑わいました。市内の緑地や公園で集めた木の实を使った「木の实の名前当てクイズ」には子供たちを中心に約160人が挑戦、景品の鉛筆やエコクマ・エコアラシールなどをもらって嬉しそうにしていました。



また、11月8日(土)、9日(日)に開催された第48回日野市産業まつりでは、環境保全課のブースに募金箱を置き「ひの緑のトラスト募金」を実施しました。募金額は昨年より大幅に増え、市民の方々のご協力に感謝です。昨年に続き今年も、市民の森ふれあいホール入口の水路に「ピコ水力発電機」を設置、カワセミの影絵をLED電球の光で光らせて、市民の皆さんに小水力発電をアピールしました。

環境基本計画推進会議グループの紹介 2

日野市では第2次環境基本計画を遂行していくために、みどり、水、ごみ、CO2の4つの分野で市民と市が協働して取り組んでいます。前号（第13号）からこの4つの分野を担当するグループの紹介をスタートしました。今回はみどりグループの紹介ですが、グループ主催で最近行われたみんなの環境セミナー「失われゆく緑・残された緑」の報告により、その活動の一端を紹介します。グループの活動の全体的な紹介は次号で掲載の予定です。

<みどりグループ>

私達みどりグループは『失われゆく緑・残された緑』をテーマに10月12日、快晴の秋の一日、高幡周辺を歩きました。台風が接近し前日までヤキモキさせられましたが、当日は最高の天気にも恵まれ、観察会日和になりました。「日野市は緑と水の町といわれています。しかし宅地化が進み、失われゆく緑も多くなっています。秋の一日、高幡周辺を歩き、緑を探索しながら『まちの緑』について考えてみませんか!」のよびかけ文はユニークで新鮮味をもって受け取られ、市内外から多数の参加者がありました。問題提起した今回の観察会の『まちの緑を皆で考える』の目標がほぼ達成され大きな成果をあげたと思います。参加者全員から頂いた貴重なアンケートの感想からもそれがうかがえます。全員の方々がこのような観察会を評価してくれています。時代の変化や歴史なども取り入れた解説も好評で、何十年と見ていた景色が全く新しい顔を見せてくれた、回数も多くし環境団体や歴史団体などとコラボした観察会も要望する、という声もありました。また、浅川と程久保川の合流点のワンドに植えられたコスモスについては、多くの参加者が感想を書いていました。当日コスモスは満開でしたが、元の自然景観が大切に園芸種のコスモスは適切でない、との意見がほとんどでした。

印象に残ったこととして、★田畑が失われマンション、戸建て住宅、資材置場となった現場に立って改めて緑を惜しむ気持ちが湧いた、町全体で緑地が減少していることを改めて感じた ★コンクリート護岸などを撤去し緑を復元し、また、トンボ池北側の昔からの緑を残した向島緑地は貴重な緑として印象に残った ★市民と行政と一緒に協力しているのが羨ましい（他市からの参加者）といった感想もありました。

参加者と共に考え学ぶ観察会でしたが、新たな課題も見えてきました。今回の経験をもとに、みどりグループの今後の活動に生かしたいと思います。
(みどりグループ 田中 徹)



熱心に解説を聞く参加者の皆さん

日野の魚たちの現状とその保全 (その2)

<日野の魚たちを取りまく現況>

鶴田 大三郎（水生生物研究家）

前号（第13号 10月10日発行）では日野で採集された魚たちを紹介しましたが、今回はどうしたら保全ができるかを考えます。

現在多摩川や浅川で行われている河川改修は浸食されにくい護岸への改修ですので、水深のある淵や水際まで雑草がはえる場所は少なくなっています。タモロコやモツゴ、フナ類が少なくなるのは当然のことで、今では水際に雑草の残る谷地川や程久保川など規模の小さな川や用水がこれらの魚たちの貴重な生息の場となっています。

日野用水をみると、市内の用水の多くがそうであるように、近年の突然の豪雨への対応で取水量を少なくせざるを得ない状況になっており水深の浅い場所が広がっています。水量が少なくなると魚たちは流下し、少しでも水深のある場所に集まろうとします。日野用水は十分な水量さえ確保できれば今でも多くの魚が生息できる環境が残っています。また、よそう森や四谷水門跡のような水草が繁茂し水深がある場所では、今年生まれた小さな魚も数多く見られました。今後どのくらいの魚が生息できるかは水量をどの程度増やせるかと、どのくらいビオトープ的空間を増やせるかにかかっています。

浅川から取水する平山用水や向島用水などは取水堰が砂利で築いてあるため、大雨が降ると堰が流され数日から数週間取水がストップすることがあります。数日で用水内の水は枯れ生き物の多くは死んでしまいます。最近では向島でもこの悲劇が起こってしまいました。向島用水は生態系に配慮し改修された素晴らしい用水で、植生も豊かで水生昆虫や小魚たちも多数生息していましたが、長期間水が入らない状態が続き多くの場所が干上がってしまいました。この夏調査したときには湿地で生き残ったヌマエビだけはいましたが、水生昆虫や魚は全く採集できませんでした。



向島用水 2014.12.10撮影

私も今までは用水の水が枯れるのはどうにもならないとあきらめていましたが、みなみだいら児童館に低価格の電動井戸が導入されているのを知り、生態系を根本からくつがえす悲劇を止める事ができるのであれば、緊急時の対策として自噴井戸とともにこのような井戸も必要な設備だと思いました。用水は次の世代をにやう小魚たちの貴重な成育の場となっています。魚をはじめとする多くの水生生物が助かるのであれば設置するだけの価値は十分にあると考えます。

■環境問題に少しでも関心のある方、第7期市民環境大学に参加してみませんか

市民環境大学は、地球規模から身の回りの環境まで幅広く考え正しく知ること、問題解決のためにみんなでできることを実践することを目的とした講座です。2015年度で第7期目となります。

講座は5月から7月の前期と、10月から12月の後期に分けて合計20回開かれます。期間中、毎週木曜日の午前10時から12時まで開校です。前期・後期を通して出席された方には修了書をお渡しします。ちなみに、第1期～6期の修了者の累計は83人です。修了者の方々を中心にOB会も結成され活発に活動しています。講座の内容は身の回りの環境の基礎から大学で行っているような専門的なものまで含んでいますが、いろいろな事例や最近の話題などを取り上げ、わかりやすく説明していきます。参加者による話し合いも活発です。

環境問題に少しでも関心のある方々が本講座に参加されて理解を深め、問題解決のための実践活動に結びつくようなきっかけをつくれることを期待しています。どうぞお気軽ご参加ください！

<募集要項>

開催期間：前期 平成27年5月～7月（全10回）
後期 平成27年9月～12月（全10回）
時 間：毎週木曜日 午前10時～12時
場 所：日野市環境情報センター2F会議室
対 象：18才以上の日野市在住者または在勤者
定 員：20名（先着順）
受 講 料：無料
申込締切：平成27年4月18日（土）

*お申込みは日野市環境情報センターへ電話またはFAXをお願いします。（最終面参照）

<主な学習内容>（予定）

- ・地球環境問題とは
- ・地球温暖化の影響と対策
- ・ヒートアイランド現象と身近な対策
- ・水循環と人間活動の影響
- ・日野市の水と緑
- ・水質汚染と対策
- ・雨の役割
- ・酸性雨と生態系への影響と対策
- ・オゾン層破壊の影響と対策
- ・大気汚染と光化学スモッグ
- ・地球環境と身近な環境を考える

■第11期雑木林ボランティア講座に参加し雑木林の大切さを学びましょう！

現在、放置されたままになっている雑木林は、わずか50年前まで私たちの暮らしにとってかけがえのない大切な場所でした。「日野市雑木林ボランティア講座」は、昔のような明るく健全な雑木林を維持管理し次世代に引き継ぐことを目的に、市民と行政の協働で平成17年にスタートしました。この講座を通して専門的な知識や技術を習得した雑木林ボランティアを育成し、新しい緑の保護団体を設立したり、既存の緑の団体に送り込もうとがんばっています。講座は雑木林の基本的な講義から始まり、手道具・刈払い機・チェーンソーの実習など雑木林の管理ノウハウを、1年間（5月～翌年3月の全10回）にわたり習得するものです。毎月、主に第3土曜日に開催します。スタートした平成17年から25年（9期）までに講座修了者は累計で189人になっています。今年度も31人の方が講座を受けています。是非、本講座に参加し、一緒に楽しい汗をかきながら雑木林の大切さを学んでいきましょう。

昨年11月30日には講座開設10周年を記念してシンポジウム「日野市の雑木林を育む」を開催しました。雑木林の保護に貢献したグループや個人の方々の表彰や、日本鳥類保護連盟会長矢島稔氏による雑木林と昆虫に関する講演会、明治大学倉本宣教授をコーディネーターとするパネルディスカッションなどが行われ、講座の修了生をはじめ100名にも及ぶ多くの市民が参加しました。

<募集要項>

主 催：水と緑の日野・市民ネットワーク他
開催期間：平成27年5月～平成28年3月の
毎月、主に第3土曜日（全10回）
時 間：午前9時30分～午後3時
（第1回と10回は午前中で終了）
実施会場：南平丘陵公園他
対 象：日野市在住または在勤・在学者
定 員：30名（先着順）
参 加 料：2,000円（保険代など）
申込締切：平成27年4月8日（水）

*お申込みは日野市環境情報センターへ電話またはFAXをお願いします。（最終面参照）

<講座内容>（予定）

- 5月 開校式・講義：日野市の自然環境
- 6月 視察：緑地めぐり
- 7月 講義・実習：道具の正しい使い方
- 9月 講義：里山づくり（明治大学 倉本教授）
- 10月 講義・観察会：花の形のふしぎ、植物観察
- 11月 視察・実習：明治大学黒川農場見学、下草刈り
- 12月 実習：落ち葉かき、腐葉土作り、刈払い機実習
- 1月 実習：チェーンソー実習
- 2月 実習：萌芽更新作業
- 3月 実習・修了式：椎茸ほだ木作り、修了式

■10～12月の活動報告

10月12日(日) みんなの環境セミナー「失われゆく緑・残された緑～高幡周辺を歩く～」

高幡周辺のいろいろなスポットを巡り、宅地化で失われた緑や市の施策で残された緑についてその経緯や現状を考えました。環境基本計画推進会議 みどりグループとの共催。参加者は市外の人も含め23名でした。参加者の皆さんは緑の保全について思いを新たにされたようでした。

10月18日(土) みんなの環境セミナー「虫や風を利用する花たち」

雑木林ボランティア講座の公開講座。講師はフラワーエコロジストの田中肇氏。虫や風による受粉について花がどのように形や色を工夫しているかを見ながら、花の形態や各部分の名称を学びました。植物観察も実施。参加者は講座生も含め46名と盛況でした。わかりやすい講演や実物に触れる植物観察など好評でした。

10月25日(土) 日野市環境フェア「かわせみ館ブース」開設

11月8、9日(土、日) 第48回日野市産業まつり「緑のトラスト募金」実施

11月30日(日) 雑木林ボランティア講座10周年記念シンポジウム

講座開設10周年を記念し、今までの活動をふり振り返り、次の世代に日野市の雑木林をどのように引き継いでいくかについて話し合うことを目的にシンポジウムを開催しました。雑木林の保護に貢献した個人やグループの表彰や雑木林に関する講演、パネルディスカッションなどが行われ、講座の修了生をはじめ100名にも及ぶ市民の皆さんが参加されました。

11月30日(日) みんなの環境セミナー「ネイチャーゲームで身近な自然と遊ぼう！」

自然に関わるいろいろなゲームを通して自然の不思議や仕組みを学び、自然と自分が一体であることに気づくことを目的とした自然体験プログラムです。どんぐりクラブとの共催。講師は日本シェアリングネイチャー協会トレーナーの井上満氏です。小学生の家族を中心に15名が参加、アンケートでは全員が「また参加したい」ということでした。

12月1日(月)～12日(金) 「日野の野鳥たち」写真展

市役所1階市民ホール展示企画第5弾として、日野の自然を守る会の協力で日野で見られる野鳥たちの写真展を開催しました。衆院選の影響で展示スペースが限られ紹介する写真の数が少なくなり残念でした。

12月4日(木) みんなの環境セミナー「向島用水の水と緑を見る・知る・探る」

市民環境大学の公開講座。向島用水の整備の経緯や復元された水車の解説、浅川の水質調査や向島緑地での植物観察を行いました。参加者は講座生を含め23名でした。

12月10日(水)～21日(日) 「秋の葉っぱの標本展」

かわせみ館1F展示室で、モミジやカエデなど紅葉した秋の葉っぱ30種類ほどを集めて標本展を開催しました。

* * 1月～3月の行事・イベントのお知らせ * *

1月31日(土)～2月13日(金) 13時まで 「日野の貴重植物」写真展

市役所1階市民ホール展示企画第6弾として、日野市内で見られるカザグルマなど貴重な植物の写真展を開催します。2月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

★第2回かわせみ館フェアのお知らせ★

開催期間：2015年4月4日(土)～9日(木) *5日(日) お休み

開催場所：市役所1F101会議室&市民ホール

環境団体の活動紹介パネル展、環境情報センター開設10周年記念パネル展や小学生対象のワークショップ、クイズなどを行う予定です。また、2013年度環境白書の内容についても紹介する予定です。是非、お出でください。

「日野の植物データベース」について

25年前日野市公園緑政課では、当時日野の自然を守る会会員の播本正常氏がまとめられた日野市内に生育する約1,000種の植物のリスト「日野の植物」に基づき、このリストにある植物をすべて撮影することに取り組み、播本氏をはじめ市民の方々の協力で約1,200枚の写真を集めました。このたびこれらの写真をデータベース化しましたので、閲覧をご希望の方は電話でお申し込みの上、環境情報センターまでお越しください。25年ほど前の市内の植生がわかります。

(環境情報センター 加藤 勝康)



25年前河川敷一面に咲くカワラノギク

「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3
Tel/fax:042-581-1164
Eメール:kankyo@m2.hinocatv.ne.jp